

平成 30 年度 研究推進について

仮説検証から授業改善までの流れ

1 平成 30 年度研究推進に係る研修会（4 月 12 日）

平成 30 年度研究推進計画に基づいて、全教職員を対象として、今年度の研究計画に係る説明を行いました。

今年度も廿日市特別支援学校は、生活単元学習を通して授業改善を図ります。

昨年度の研究成果を基に、生活単元学習の授業づくりのポイントについての説明も行いました。

2 仮説決定の研修会（5 月 8 日）

学部会において、各学部の仮説決定のための研修会を行うこととしました。

今年度も廿日市特別支援学校は、仮説検証型で研究を行います。

グループ別にホワイトボードを用いて、意見交換→協議を行いました。

仮説の立て方・・・「〇〇すれば、□□であろう」

※□□には、授業で目指す児童生徒の姿が入り、

〇〇には、その姿を見るために必要な私たち教師の指導・支援が入ります。

※□□を考える際には、「廿日市特別支援学校版 目指す児童生徒の姿」を、

〇〇を考える際には、「廿日市特別支援学校版 『学びの変革』資質・能力段階表
を活用しました。

研究テーマ

児童生徒の意欲、主体性を育てる授業づくり
～廿特版「学びの変革」アクション・プランに基づく生活単元学習の授業改善（二年次）

研究仮説

小学部	他の単元や学習活動とのつながりをもたせ、繰り返し取り組む活動を設定すれば、学習活動への見通しをもち、自分で考えて動いたり、やりたい気持ちを表現したりするであろう。
中学部	学習活動にペアワークやグループワーク等、他者と関わる場面を設定することにより、自らの思いを伝えることができるであろう。
高等部	生徒が自ら考え、主体的に取り組み、成功（失敗）体験を積み重ねることが出来る場面を設定することにより、自信をもち、仲間と同じ目的に向かって働く力が高まるであろう。

本校で授業改善、カリキュラム・マネジメント、廿特版「学びの変革」
アクション・プランを推進していく上で重要なツールは、「単元（題材）
計画」、「日々の授業計画（指導略案）」です。

3 1 学年 1 授業について～授業改善の流れ～

今年度は、新しい取組として、1 学年 1 授業を実施しています。

1 学年 1 授業とは

各学年（小学部から高等部まで全 12 学年）において、授業者を 1 名決定し、学年全体で授業研究を行い、授業改善を図ります。

時期：4 月～10 月まで

実施する教科・領域：生活単元学習

目的：単元づくりから学年で協議し、全員で授業研究に参加することにより、授業改善につなげる。

内容：

